



2024年10月期 第1四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Mar.8th.2024



CONTENTS

1 2024年10月期 1Q決算の概況

- 2024年10月期 1Qの概況
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因

2 2024年10月期 業績見通し

- 24/10期業績予想修正まとめ
- 上期見通しサマリー
- 通期見通しサマリー
- 今後の事業環境について
- 光事業見通し
- 光事業見通し(半期・四半期推移)
- エレクトロニクス事業見通し
- エレクトロニクス事業見通し(半期・四半期推移)
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

2024年10月期 1Q決算の概況

事業環境

- 世界経済は、一部の地域で経済活動が停滞しているものの、インフレ率の上昇が鈍化しており、緩やかに持ち直す動きが見られた
- ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中東情勢、中国での不動産市況の低迷、欧米での政策金利の高止まりの兆候、不安定な為替相場など、先行き不透明な状況
- カメラ市場は、スマートフォンの普及などによって縮小したものの、高品質な映像表現を求めるプロやアマチュアの需要が底堅く推移しており、ミラーレスカメラを中心にレンズ交換式デジタルカメラ及び交換レンズは堅調に推移
- 半導体露光装置市場は、メモリーを中心とした設備投資の落ち込みが大きかったものの、生成AIやパワー半導体向け装置などは堅調に推移
- FPD露光装置はパネルメーカー各社の投資が弱く低調に推移

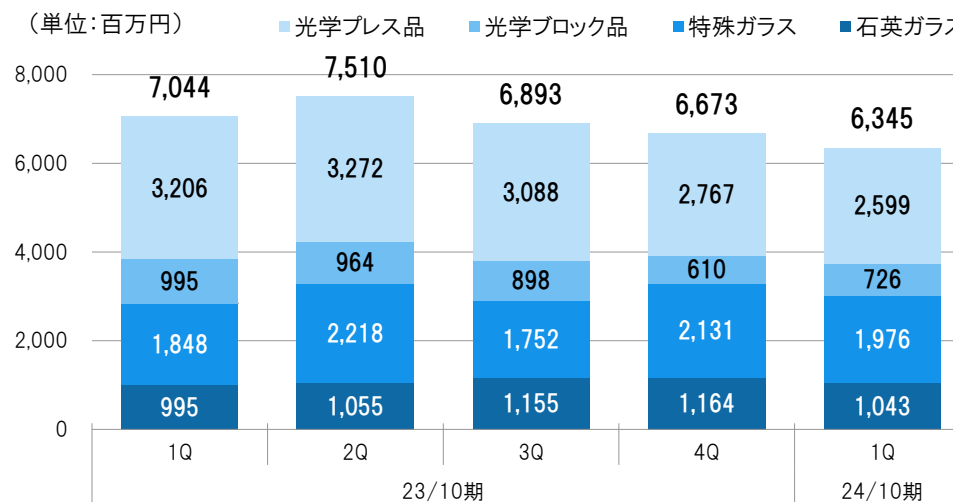
当社状況

- 売上高は、エレクトロニクス事業において、半導体露光装置用途の堅調な受注に対して生産能力を増強したことによって好調に推移したものの、光事業において、想定以上にサプライチェーン内の在庫調整の影響を受け、生産調整を実施したことから、前年同期比9.9%の減収
- 営業損益は、エレクトロニクス事業において高付加価値製品の販売が増加したものの、光事業において生産設備の稼働率低下が続き、原価率が悪化したことから、前年同期比60.9%の減益

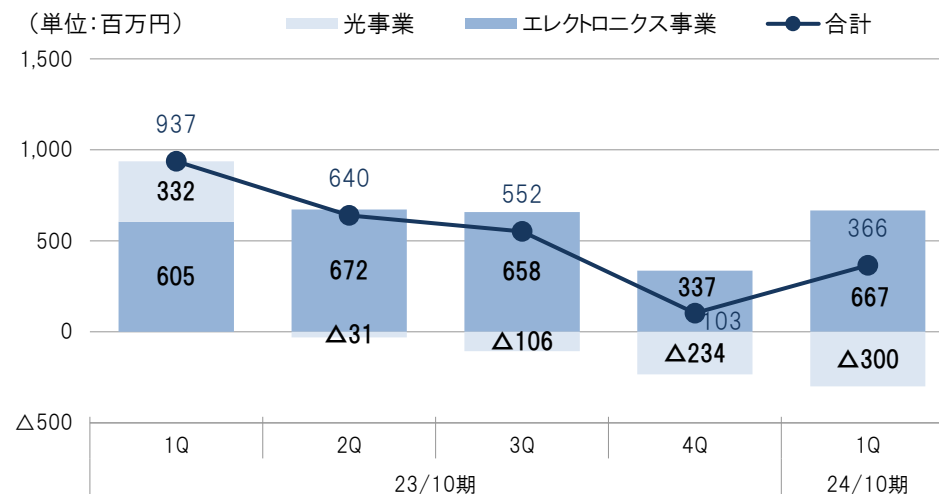
(単位:百万円、%)

	23/10期 1Q	24/10期 1Q	増減 増減率
売上高	7,044	6,345	△699 △9.9%
営業利益	937	366	△570
[営業利益率]	13.3%	5.8%	△60.9%
経常利益	774	378	△395
[経常利益率]	11.0%	6.0%	△51.1%
純利益 (親会社株主に帰属)	603	116	△486
[純利益率]	8.6%	1.8%	△80.7%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 136.06 142.95	期中平均 146.86 159.66	

売上高四半期推移



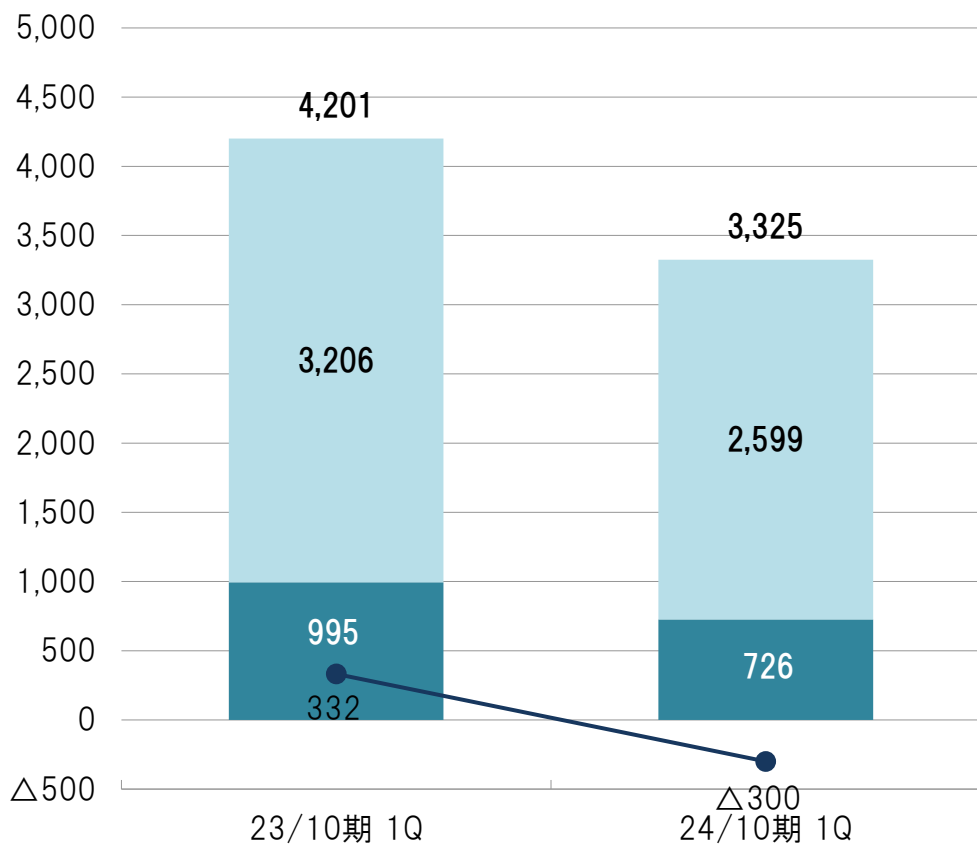
営業利益四半期推移



1Q対比

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

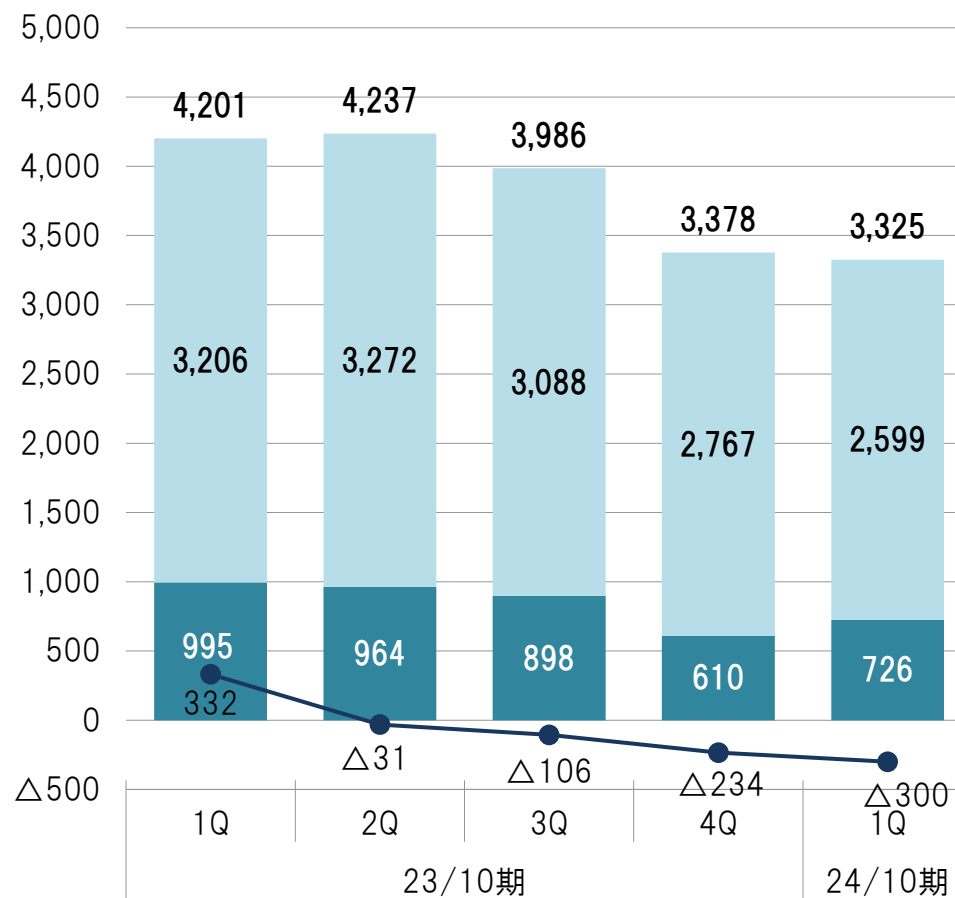
(単位:百万円)



四半期推移

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

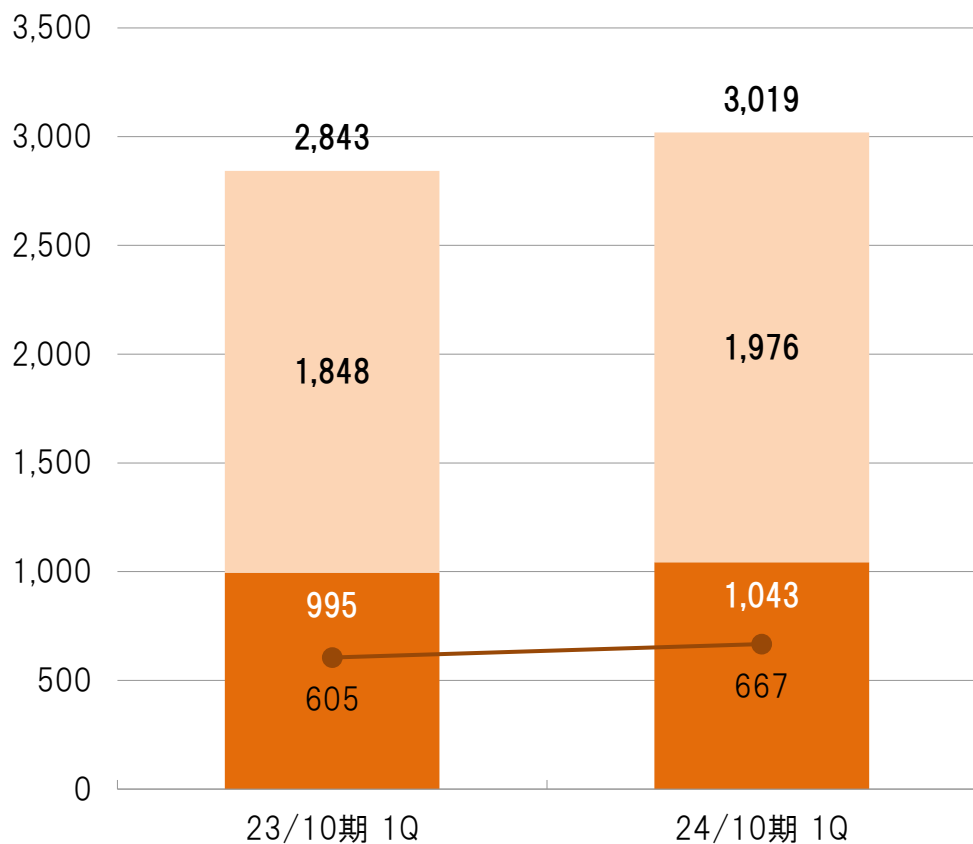
(単位:百万円)



1Q対比

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

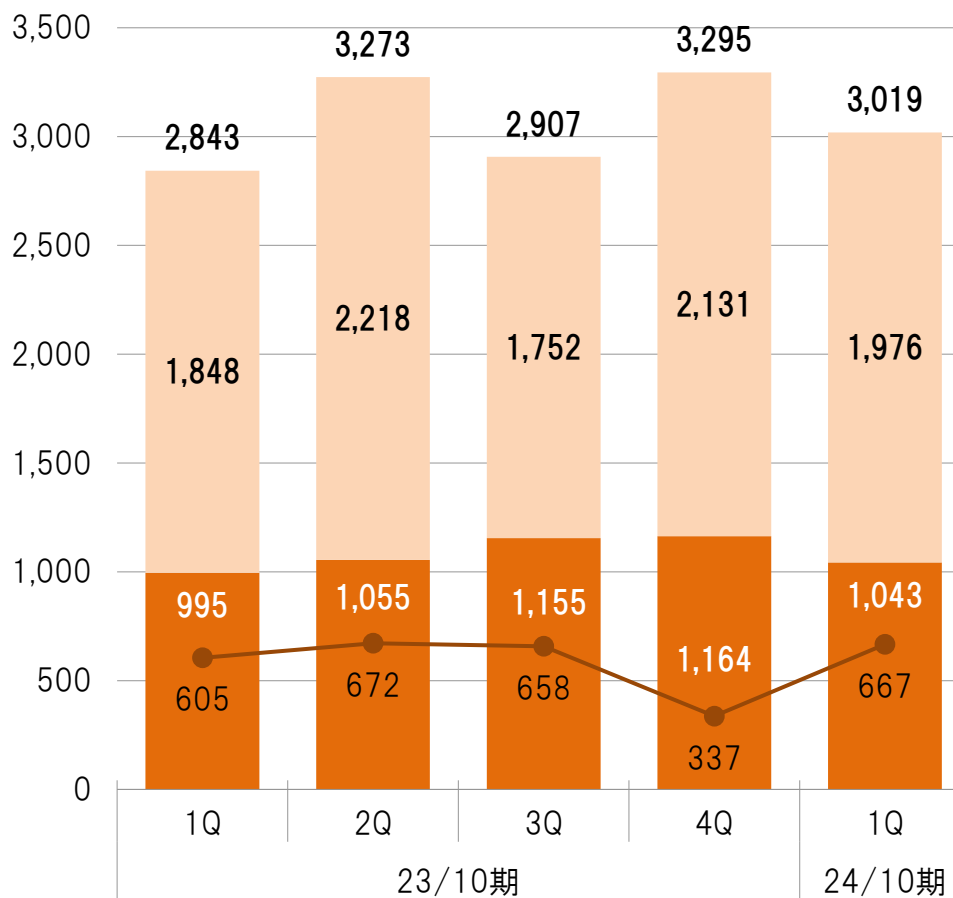
(単位:百万円)



四半期推移

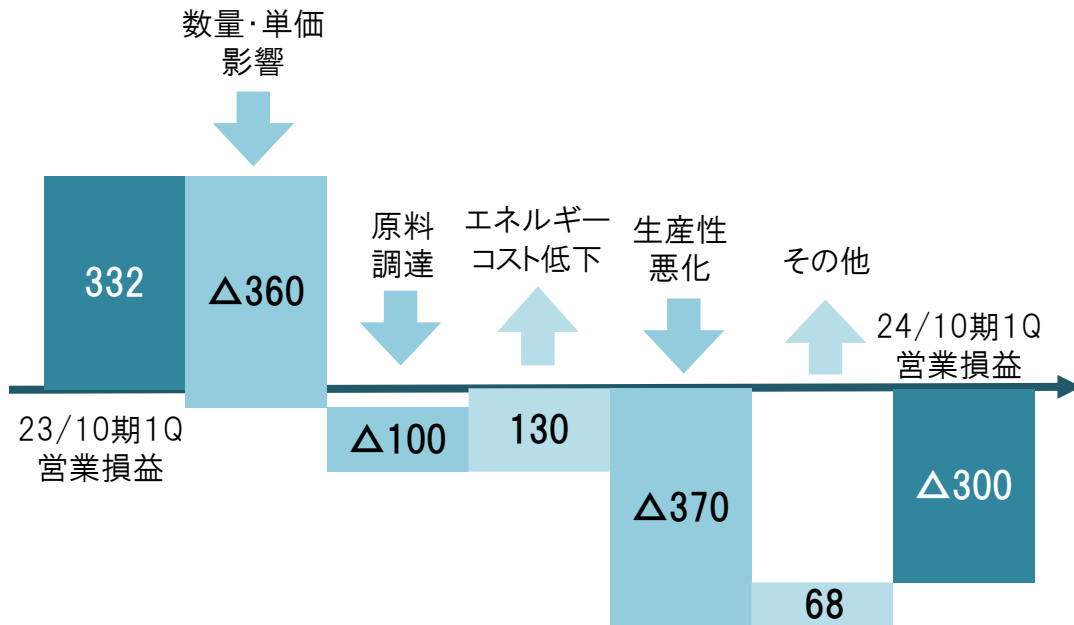
特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)



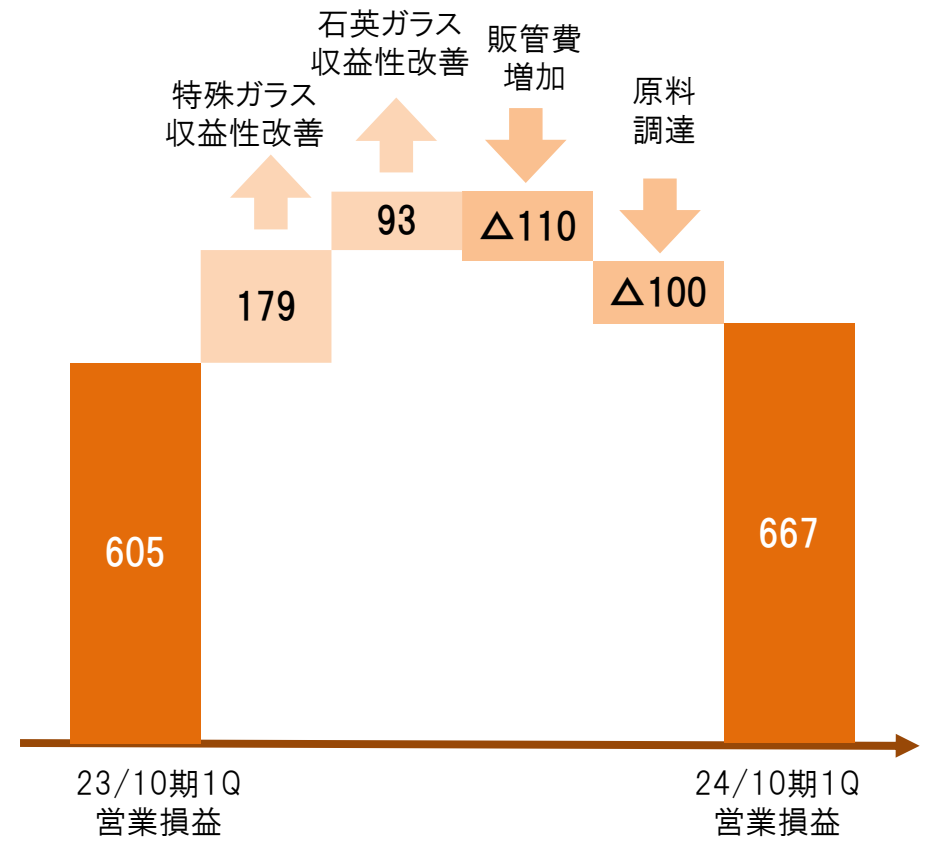
光事業

(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



2024年10月期 業績見通し

24/10期業績予想修正まとめ

上期

(単位:百万円、%)

	期首予想 (23/12/14)	修正予想 (24/03/08)	増減額
売上高	13,600	13,100	△500
光事業	6,800	6,600	△200
光学プレス品	5,400	5,200	△200
光学ブロック品	1,400	1,400	0
エレクトロニクス事業	6,800	6,500	△300
特殊ガラス	4,400	4,300	△100
石英ガラス	2,400	2,200	△200
営業利益	1,000	800	△200
光事業	△200	△500	△300
エレクトロニクス事業	1,200	1,300	100
経常利益	1,100	900	△200
純利益(親会社株主に帰属)	700	500	△200
為替レート 円/1USD	期中平均 140.00	期中平均 140.00	
円/1EUR	150.00	150.00	

通期

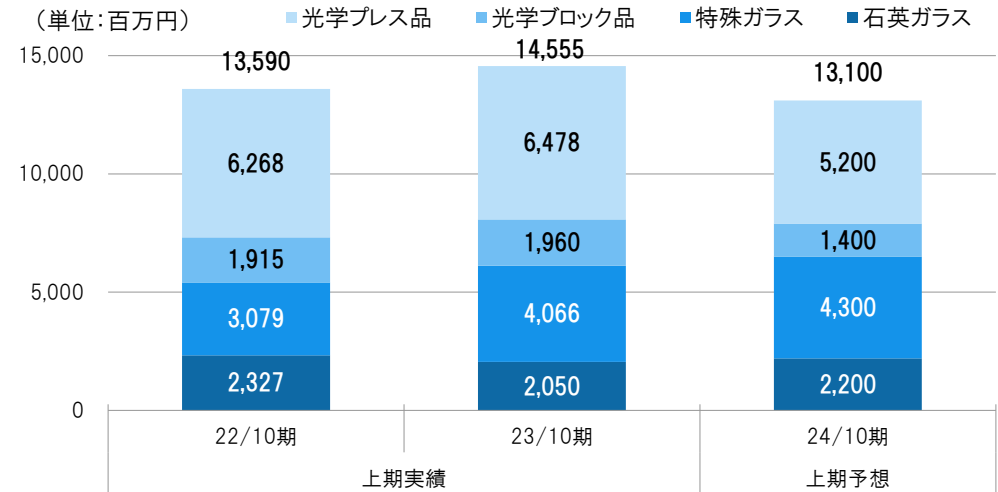
(単位:百万円、%)

	期首予想 (23/12/14)	修正予想 (24/03/08)	増減額
売上高	28,500	28,500	0
光事業	14,400	14,400	0
光学プレス品	11,500	11,500	0
光学ブロック品	2,900	2,900	0
エレクトロニクス事業	14,100	14,100	0
特殊ガラス	9,100	9,100	0
石英ガラス	5,000	5,000	0
営業利益	2,700	2,700	0
光事業	100	0	△100
エレクトロニクス事業	2,600	2,700	100
経常利益	2,900	2,900	0
純利益(親会社株主に帰属)	1,800	1,800	0
為替レート 円/1USD	期中平均 140.00	期中平均 140.00	
円/1EUR	150.00	150.00	

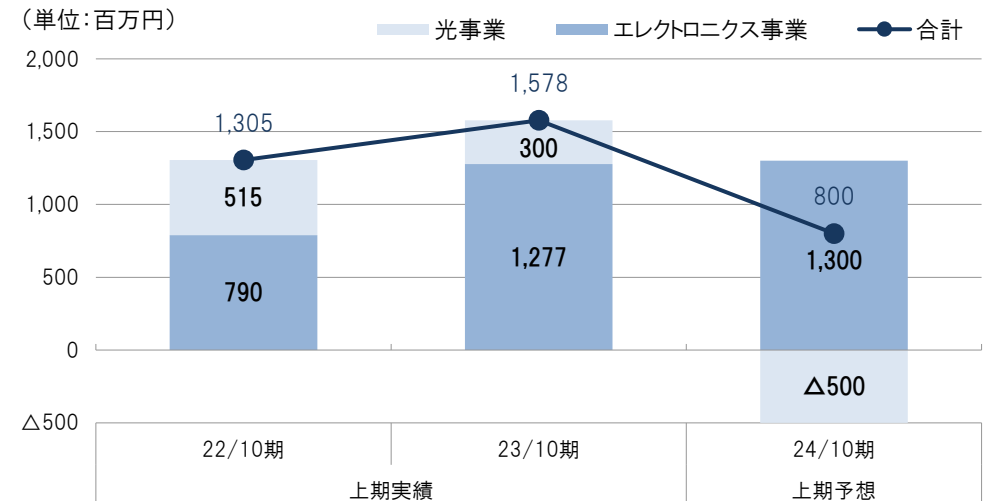
(単位:百万円、%)

	23/10期 上期	24/10期 上期予想	増減 増減率
売上高	14,555	13,100	△1,455 △10.0%
営業利益	1,578	800	△778
[営業利益率]	10.8%	6.1%	△49.3%
経常利益	1,631	900	△731
[経常利益率]	11.2%	6.9%	△44.8%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,220	500	△720
[純利益率]	8.4%	3.8%	△59.0%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 134.73 143.45	期中平均 140.00 150.00	

売上高内訳



営業利益内訳

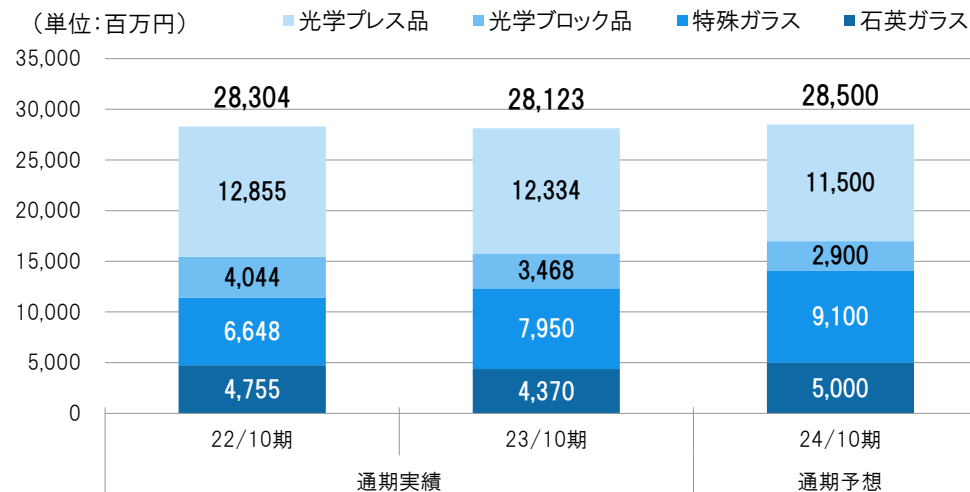


通期見通しサマリー

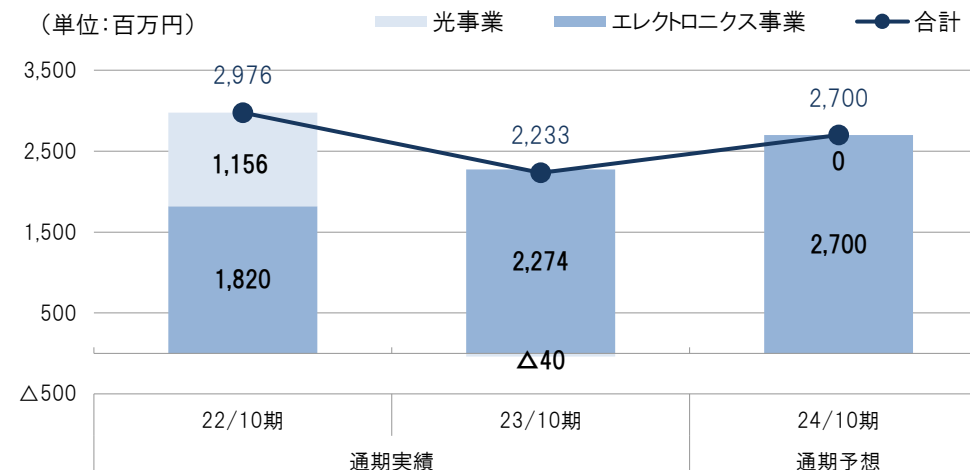
(単位:百万円、%)

	23/10期 通期	24/10期 通期予想	増減 増減率
売上高	28,123	28,500	376 1.3%
営業利益	2,233	2,700	466
[営業利益率]	7.9%	9.5%	20.9%
経常利益	2,603	2,900	296
[経常利益率]	9.3%	10.2%	11.4%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,572	1,800	227
[純利益率]	5.6%	6.3%	14.5%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 139.28 149.49	期中平均 140.00 150.00	
年間配当金 (円)	20.0	23.0	

売上高内訳



営業利益内訳



光事業

■ デジタルカメラ市場

ミラーレスカメラの新製品が需要を底支えていることから、当面は横ばいで推移する見込み

■ 光学機器市場

画像認識技術や拡張現実技術の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み

エレクトロニクス事業

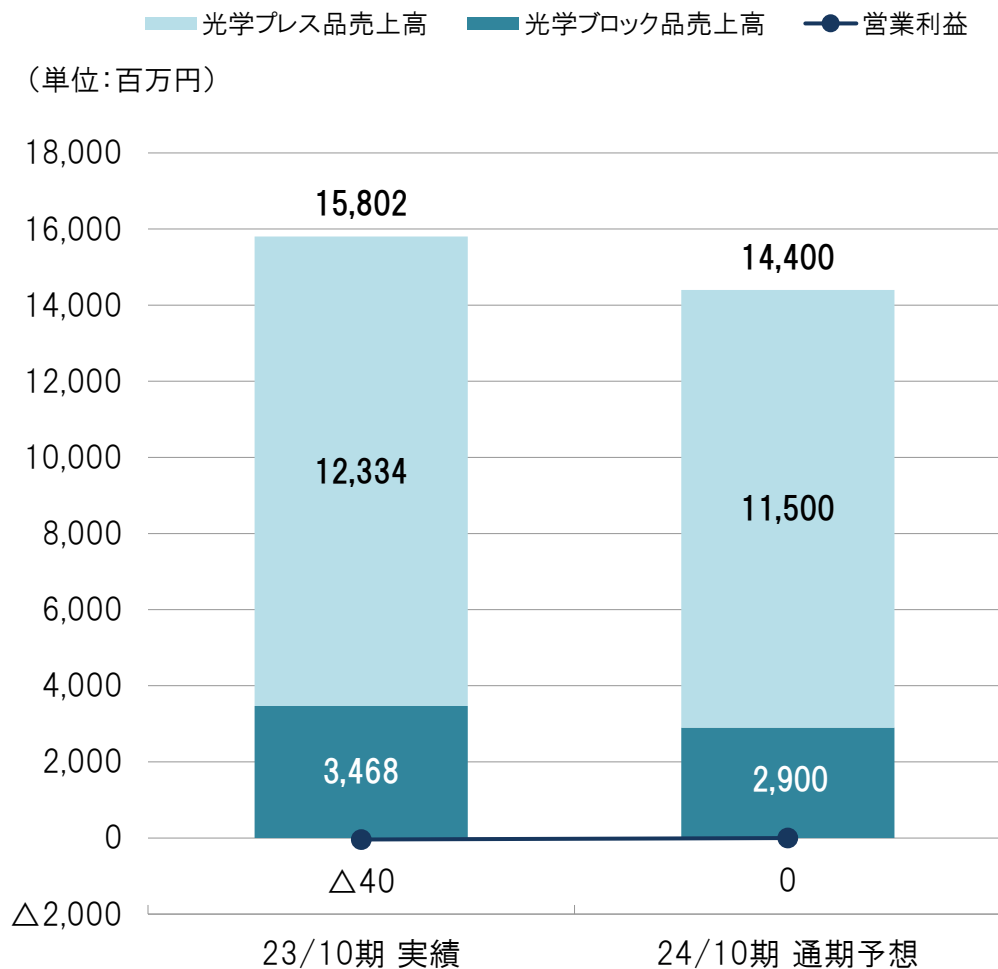
■ 半導体露光装置市場

メモリー需要に減速感が見られるものの、パワー半導体などは旺盛な需要が続いていることから、設備投資は堅調に推移する見込み

■ FPD露光装置市場

大型設備投資案件の減少により弱含みで推移する見込み

通期対比



見通しのポイント

【売上高】

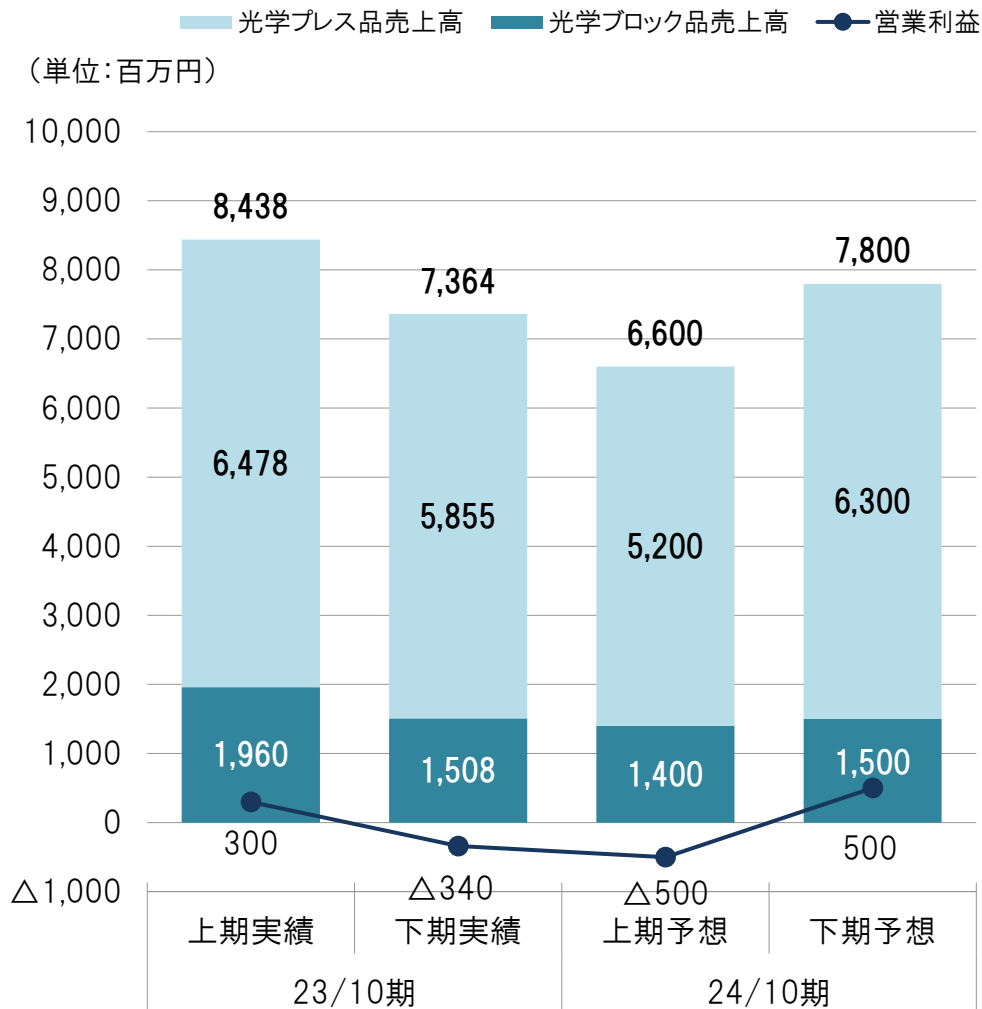
- ▶前年同期比△8.9%の減収見込み
- ▶光学プレス品、光学ブロック品は、24/10期上期はサプライチェーン内の在庫調整が続くものの、下期にかけて徐々に解消する見込み

【営業利益】

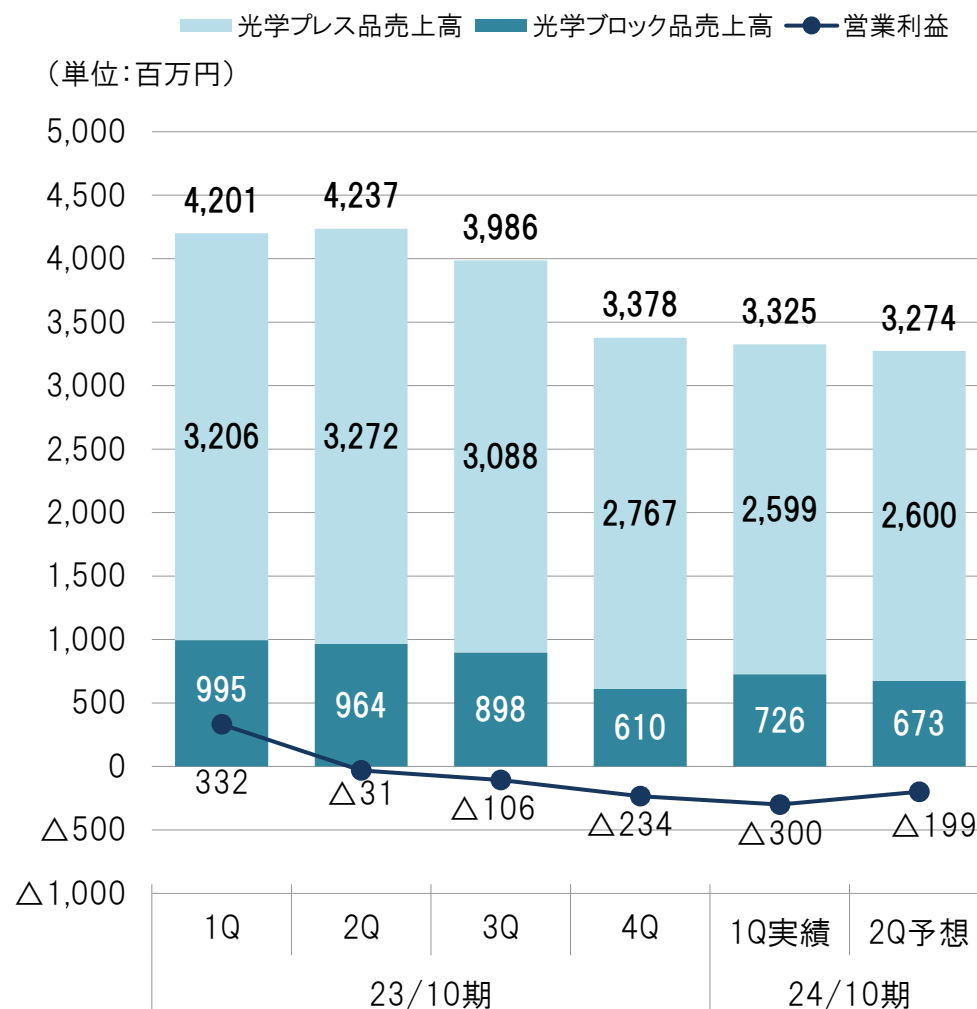
- ▶前年同期比+40百万円の増益見込み
- ▶原料費の高騰がピークアウトし、期末に向けて徐々に影響が緩和される見込み
- ▶在庫調整の解消に伴い生産設備の稼働率が回復に向かう見込み

光事業見通し(半期・四半期推移)

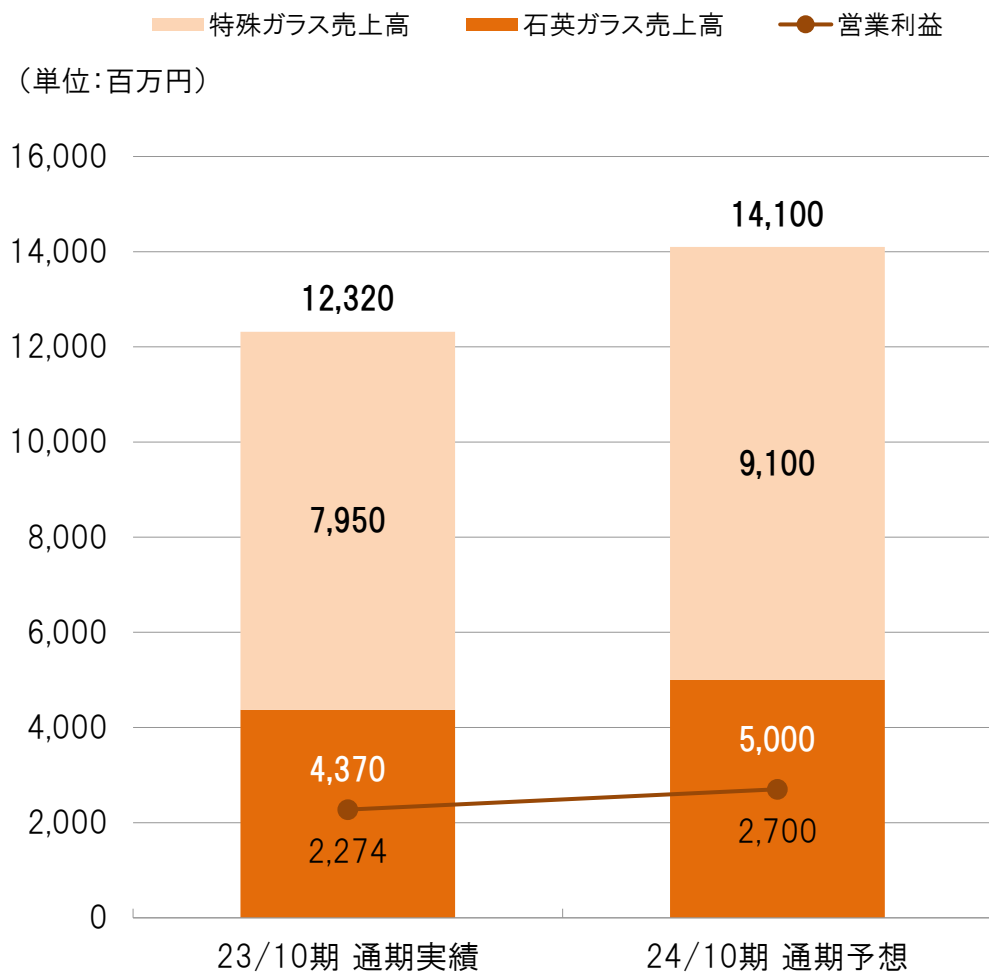
半期推移



四半期推移



通期対比



見通しのポイント

【売上高】

- ▶前年同期比+14.4%の増収見込み
- ▶半導体露光装置向け高均質光学ガラス、石英ガラスの需要が堅調に推移する見込み

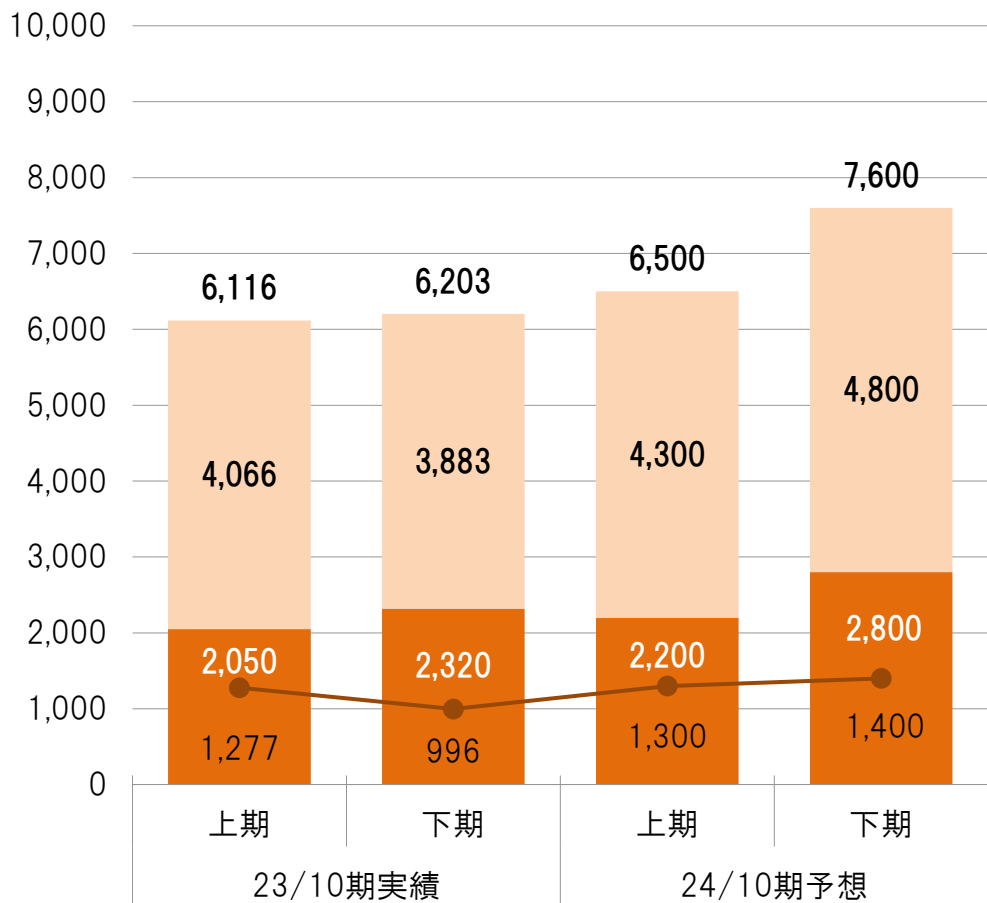
【営業利益】

- ▶前年同期比+18.7%の増益見込み
- ▶半導体向け製品の増産、売上の増加により利益が増加する見込み

エレクトロニクス事業見通し(半期・四半期推移)

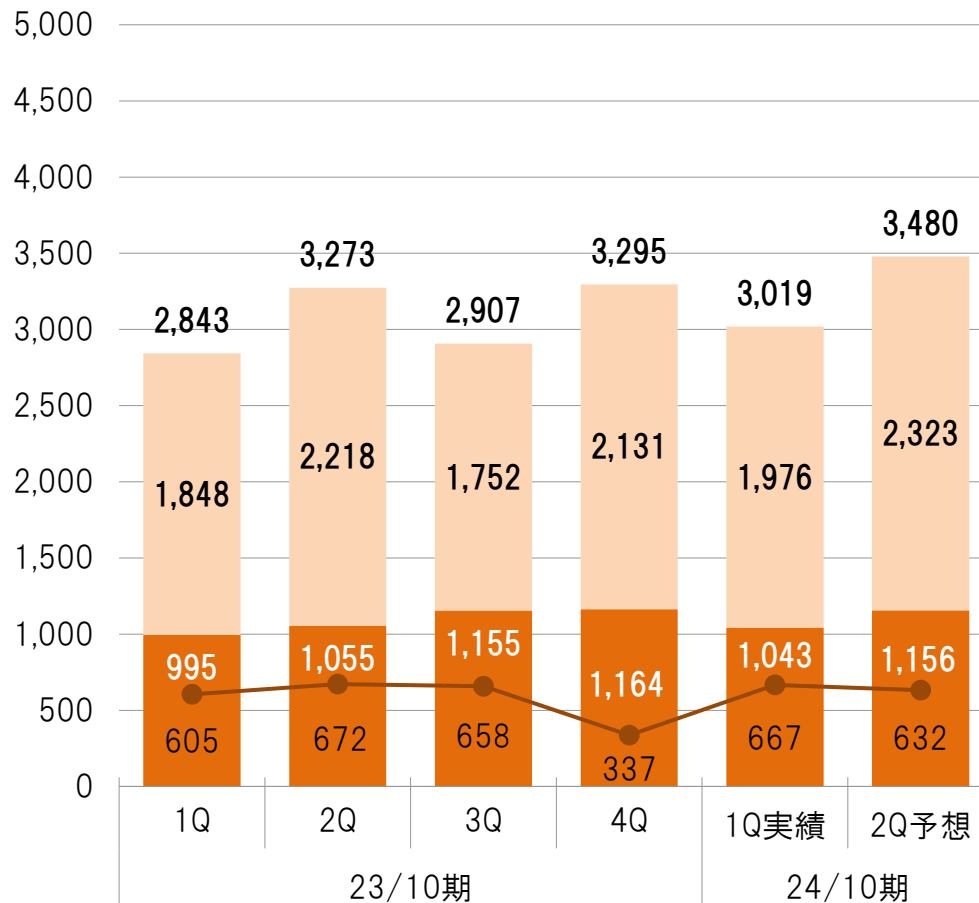
半期推移

■ 特殊ガラス売上高
 ■ 石英ガラス売上高
 ● 営業利益
 (単位:百万円)

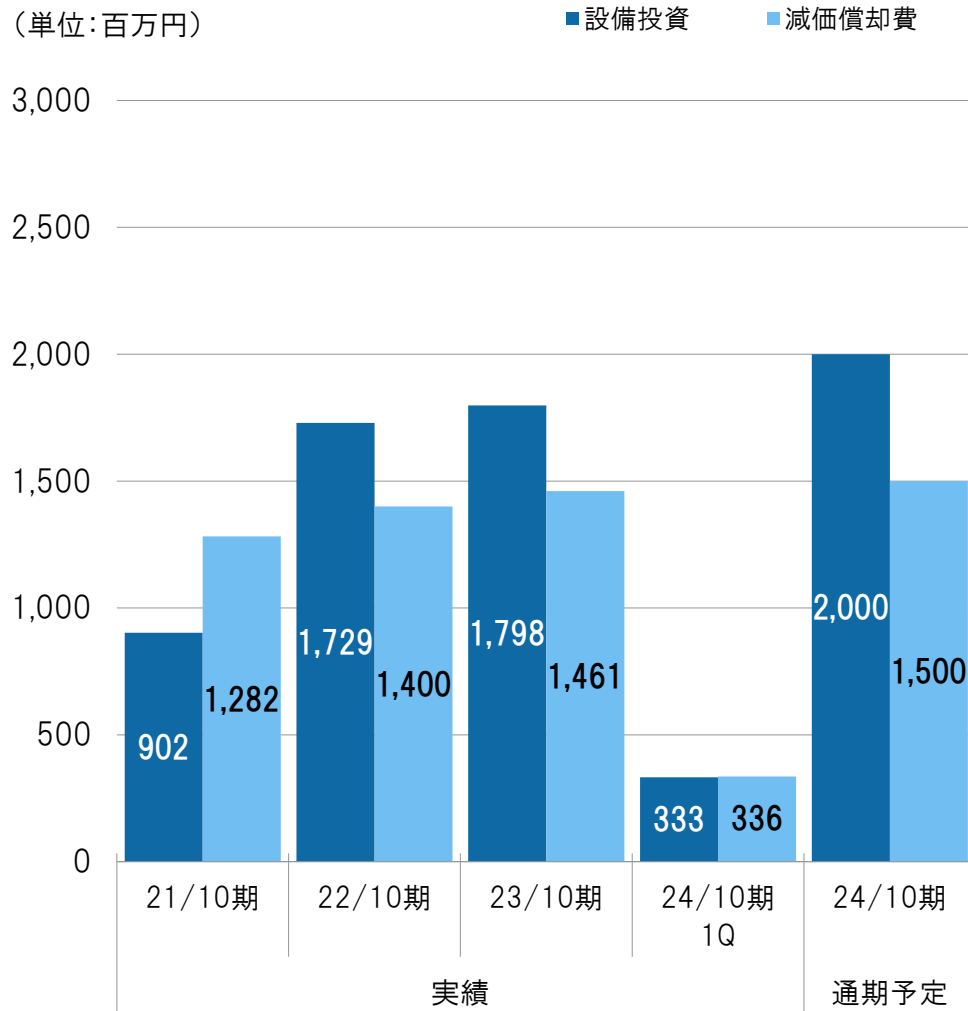


四半期推移

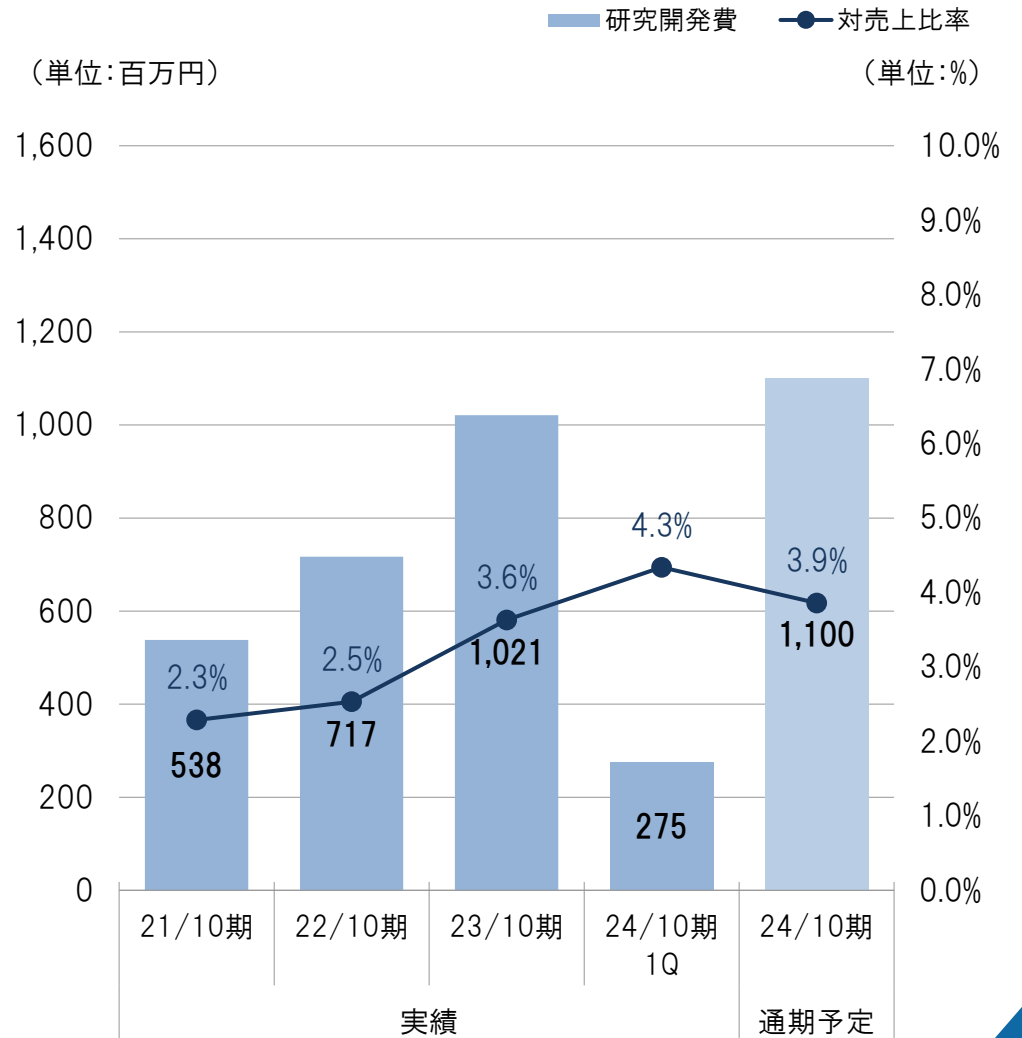
■ 特殊ガラス売上高
 ■ 石英ガラス売上高
 ● 営業利益
 (単位:百万円)



設備投資、減価償却費



研究開発費



Appendix(参考資料)

商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創立：1935年(昭和10年)10月1日
 資本金：58億5千5百万円
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従業員：連結1,476名(単体462名) (2023年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株主数：10,576名 (2023年10月31日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役専務執行役員	後藤 直雪	生産、技術統括
取締役常務執行役員	鈴木 雅智	事業部統轄兼事業企画室長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	米山 拓	
監査役(社外)	浅田 稔	
監査役(社外)	飯塚 良成	

大株主

(2023年10月31日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーグループ(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.2%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	968	4.0%
6	(株)トプコン	673	2.8%
7	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB)	128	0.5%
10	オハラ従業員持株会	106	0.4%

※持株比率は、自己株式1,085千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光學(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



- 1935 10月: 小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月: 光学ガラス熔解開始
- 1944 2月: 組織変更をして株式会社小原光学硝子製造所を設立
- 1946 3月: 本社を神奈川県相模原市に移転
- 1954 5月: 白金坩堝熔解開始
- 1958 4月: ランタンガラス生産開始
- 1961 1月: 連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月: 足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月: オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月: 低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月: Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月: オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月: ステッパ用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月: 高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月: 株式会社オハラに商号を変更
- 1987 1月: 中華民国台中県に光学プレス品の製造及び販売を目的として台湾小原光学股份有限公司を設立
- 3月: 紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
- 5月: 有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月: 結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月: OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月: 環境対策光学ガラス生産開始
- 11月: OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月: ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月: 光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月: ISO9001認証取得
- 1999 1月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月: 低光弾性ガラス生産開始
- 4月: ISO14001認証取得
- 10月: 真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月: 小原光学(香港)有限公司設立
- 6月: 大規模連続熔解開始
- 12月: 小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月: 東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月: ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月: 低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
- 9月: オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月: 株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月: 華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月: 台湾小原光学材料股份有限公司設立
- 8月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月: ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
- 3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月: 非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
- 12月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が -30°C で駆動
- 2017 5月: 世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
- 12月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月: NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
- 8月: 非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
- 3月: 足柄光学株式会社を解散
- 2019 1月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2020 3月: オハラの固体添加材「LICGC™ PW-01」によりリチウムイオン電池の寿命が4倍長持ち
- 2022 3月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス『NANOCERAM™』が超小型光学衛星KITSUNEのカメラプロテクターとして採用

主要製品

製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



研磨プリフォーム (レンズ加工品)



ガラスモールドレンズ (GMO)



光学ブロック品



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

光事業	23/10期 1Q	24/10期 1Q
売上高(百万円)	4,201	3,325
交換レンズ(レンズ交換式カメラ)	55%	55%
プロジェクター	10%	10%
医療機器(内視鏡等)	10%	10%
車載カメラ	10%	10%
監視カメラ	10%	10%
その他	5%	5%
合計	100%	100%

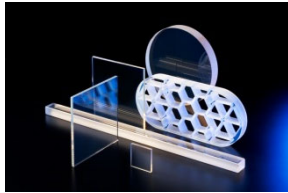
※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

主要製品

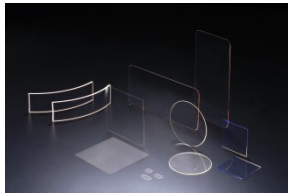
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



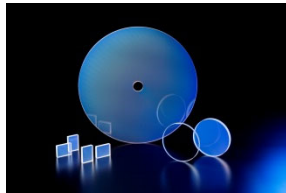
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™



線用高均質性
光学ガラス



光通信機器向け
ガラス素材
WMS™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

エレクトロニクス事業	23/10期 1Q	24/10期 1Q
売上高(百万円)	2,843	3,019
半導体露光装置(レンズ、構造部材)	40%	50%
FPD露光装置(レンズ、ミラー材)	5%	—
半導体フォトマスク	10%	10%
光通信機器(DWDMフィルター材)	5%	5%
プロジェクター(TFT基板材)	5%	—
その他	35%	35%
合計	100%	100%

経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心で快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにすることで、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく

OHARA

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。